

【大学生等部門】優良賞

幸せな私達へ

中央医療歯科専門学校 3年 吉田 綾花

大切な未来の子供達へ。この手紙はお母さんがお父さんと結婚する年に書きました。時が経つのは早いもので、お父さんと出会って七年が過ぎようとしています。

お父さんのもとへ向かう特急両毛号の車窓から見える風景が群馬の穏やかな田園から東京の煌びやかながらもせわしない街並みにうつろいゆく中で、「そっぴいば彼と出会った頃は東京スカイツリーがまだなかったんだ」とぼんやり思いました。

街並みも、社会も、経済もどんどん変化していきます。私自身も、学校は卒業を控え、次の住居を探し、名字さえ変わろうとしている中で、永遠に変わらないモノって何だろうと考えてしまう今日この頃です。

でも一つだけわかる事があります。お母さんはあなた達の事を愛しているという事です。きっと細かい事を注意したり、口うるさい事も言っているかもしれませんが、でも、これからあなた達が成長し、大人になって社会へ旅立つ日が来た時に、どんなに辛く苦しい事があつたとしてもきつとお父さんとお母さんは愛をもつてしてあなた達を支える事を約束します。だからあなた達もこれからたくさんの人と出会い、恐れず、様々な事を経験して下さい。人は人によって磨かれます。なので出会った人を大切に、感謝の気持ちと謙虚な姿勢を忘れずに挑んで下さい。

街並みや時代が変わっても永遠に変わらないモノは、もしかしたらあなた達への愛なのかもしれません。実はこんなに身近なモノだったんですね。笑ってしまいます。愛し、愛される事ってとっても幸せですね。